

乗合タクシー廃止、農村公園廃止・・・ 高齢者・農村地域を切り捨てないで！



かすみがうら 市議会議員 みやじま謙 活動報告

つばさ通信

第16号

なぜ人減らし政策をするのか？

坪井市長は来年度の施政方針の中で「ふるさとに誇りの持てるまちづくり」を掲げています。しかし、その中には、首をかしげざるを得ない政策が隠されています。

その最たるものが、高齢者の大切な外出手段であるデマンド型乗

来年3月で廃止の方針

3月22日にかすみがうら市議会平成31年第一回定例会が終了し、来年度予算の審議を通じ、高齢者や農村地域の切り捨てともとれる方針が明らかになりました。特に問題なのが、デマンド型乗合タクシーが来年3月で廃止されることと、市内15カ所ある農村公園の廃止方針です。

「気軽に外出」が健康の鍵

しかし、乗合タクシーの利用者からは、「予約を何度も断られた」「線路の反対側に行くには乗り換えが必要で料金も2倍かかる」など、使いにくさを訴える声が多いのです。

本来であれば、こうした市民の声に耳を傾けて、より使いやすい

合タクシーを来年3月いっぱいまで廃止するといふものです。

市は乗合タクシーについて「利用者が減少し、同じ人ばかり使っていて、一人当たりの経費も高くなっているから」との理由で来年3月で廃止し、代替策としてタクシーの利用助成（タクシー乗車1回につき500円、月6回・年72回）に切り替えるとしています。

子育て支援は未来への投資

もう一つ明らかになった問題は、農村公園の廃止方針です。

農村公園とは、農村地域の交流拠点として

制度に改善するのが行政の責任のほうです。代替策のタクシー助成にしても、駅から遠い人にとっては、とても日常の足に使えるとは思えられません。

これからますます高齢化が進み、一人で外出できないお年寄りが増えます。外出できなければ、家に引きこもるしかなく、気分はふさぎ、身体も不調に陥り、介護生活へ移行せざるを得なくなります。

できるだけ気軽に外出し、多くの人とコミュニケーションを持つことが健康寿命を延ばす鍵であり、医療費や介護費用の面からみても、大いにプラスになるのです。乗合タクシーは廃止ではなく、改善すべきなのです。



公園を廃止するまちづくりって何？

整備された公園で、市内に15カ所あります。そして市は来年度の予算で、その農村公園の遊具を撤去する費用を盛り込みました。撤去した後に新しい遊具を設置して、若い子育て世代を呼び込もうというのであれば大歓迎なのですが、方針は全く逆。撤去して、農村公園は無くしていくのです。

いま、農村地域のもっとも深刻な悩みは後継者不足であり、若い世代の流出を防ぎ、呼び込むことが最大の課題です。そんな中で公園廃止は「人減らし政策」と言われても仕方ありません。高齢者や農村を切り捨てるために、どうして誇りが持てるのでしょうか。

フードバンク活動にご協力お願いします！

フードバンクとは、賞味期限内で安全に食べられるにも関わらず包装ミスや返品などで廃棄される食品や、ご家庭で余っている食品を集め、困っている人へ無償で届ける活動です。だれでもできる「食の助け合い」にぜひご協力ください。

【寄付していただきたい食品】

2か月以上の賞味期限があり、常温保存できる未開封の食品（缶詰、レトルト食品、乾麺、インスタント食品、白米、お菓子など）

※もちろん新規購入品も大歓迎です。

【受付場所】

霞ヶ浦地区：あじさい館入口

千代田地区：千代田ショッピングモール農協そば前

※いずれも営業時間内



みやじま謙はNPO法人フードバンク茨城の会員です

中学校スクールバス不公平問題

自転車購入の負担軽減を

行政による自転車貸与策を提案

国の補助は3月で終了

5年前に統合新設さ

れた霞ヶ浦中学校では、

スクールバスが運行さ

れています。通学距離

6キロ以上遠の生徒のう

ち希望する生徒は無料

で利用できます。一方

で、6キロ未満の生徒

は自転車通学となり、

その購入費用が各家庭

の経済的負担となって

おり、同じ学校に通う

生徒間での不公平が、

毎年訴えられています。

また、同じような通

学環境にある千代田中

学校ではスクールバス

の運行はなく、学校間
での不公平も指摘され
ています。

そもそも霞ヶ浦中学

校でスクールバスを運

行することになったの

は、学校統合から5年

間に限り、費用（平成

30年度で約3000万

円）の大部分を国が補

助してくれる制度があっ

たからです。

しかしその補助も今

年3月で終了し、4月

からは自前で運行しな

ければなりません。

私は3月議会の一般

質問で、この問題に言

及し、今後の方針を質

したところ、

「あと2年で霞ヶ浦地

区の小学校が統合して

5年となり、そちらの

国の補助も終わるので、

そのタイミングに合わ

せて（有料化も含めて）

検討する」として、そ

れまでの2年間は市の

財源を投入して続ける

方針が明らかになりま

した。

希望者に自転車貸与を

私は、かすみがうら

市のこうした状況に対

し、新たな提案をしま

した。

それは、国庫補助が

終了する霞ヶ浦中学校
のスクールバスは廃止
して、その費用を活用
して、市内全域で自転
車通学を希望する生徒
に、行政が自転車を貸
し出す方式です。

平成30年度では、市

内の全中学生1161

名のうち、自転車通学

が580名、バス通学

が90名です。

自転車通学とバス通

学を合わせると670

名となり、仮に700

名の自転車を用意

したとしても、1台5

万円として3500万

円です。一年ちよつと

のスクールバス費用で、

希望者全員の自転車

用意できるのです。

利用料は年間300

0円程度の低額とし、

生徒は3年間大切に利

用し、卒業したら返却

します。そして新年

生がその自転車を受け
継ぎます。国内の安全
基準をパスした自転車
は丈夫で安全にできて
おり、メンテナンスを
しつかりすれば、10年
以上にわたって十分に
使用できます。

市民のための自転車活用

もちろん、安全教育、

日常の点検やメンテナ

ンス、保険対応などは

行政が担当し、安全を

確保することは言うま

でもありません。

この方式に変更すれ

ば、自転車購入の不公

平感解消し、利用生

徒の健康増進に役立ち、

市の財政も大いに節約

されます。

「所有」から「共有」

へと時代が移り変わる

今、通学自転車も市民

の共有財産として、教

育に活用すべきです。

再生可能エネルギー促進は私たちの責務

東北地方太平洋沖大地震によって引き
起こされた福島第一原子力発電所の事故
により、これまで言われてきた原子力発

電の安全神話は完全に崩壊しました。

その教訓から、かすみがうら市では平
成25年に「脱原発平和都市宣言」を行い、

具体的な施策として、太陽光発電施設を
設置した場合、その場所の固定資産税の
半分を5年間減免する条例を施行してき
ました。

ところが今回、この施策を廃止する条
例案が議会に提出されました。「条例施

行から5年が経過し、一定の効果が得ら
れ、今後は民間企業の持続的な経営が望

ましい」というのが廃止の理由です。

しかし、危険極まりない核廃棄物の処
理方法がないという原発の致命的な問題
点が解決されない以上、太陽光発電の役
割はむしろ高まっているのです。

市民の安全、後世への責任を考えた時、

再生可能エネルギー促進は、今を生きる
私たちの責務だと思うのです。



原発と太陽光、どちらが安全？

明日への思い

かすみがうら市の2大
イベントのひとつ「あゆ
み祭り」の開催日は、歩
崎観音のご開帳に合わせ
てずっと8月16日だった
のですが、一昨年、地元
の声も聞かずに突然7月
に変更され、大きな騒動
となりました。

昨年には、地元4団体
から元に戻すように要望
書が提出されたものの聞
き入れられず、8月16日
は「納涼祭」という「に
わか仕立て」のイベント
でお茶を濁されました。

さて今年はどうなるで
しょうか。市では「納涼
祭」は行わず、「あゆみ
祭り」の開催日はこれか
ら決めるとしています。

乗合タクシー廃止や農
村公園廃止、地元無視の
お祭りなど、市民不在の
行政運営が続いています。
市民の声を聞く当たり
前の政治が切望されます。

千代田と出島は鳥の両翼
心合わせて羽ばたこう！



みやじま謙の「創ろう！かすみがうら市新時代」
ブログ大好評配信中！